

1. 調査報告概要表

作成日 2009年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700378
法人名	株式会社 ヴィラージュ
事業所名	グループホーム 美ら寿の家
所在地	群馬県利根郡昭和村赤城原820-1 (電話) 0278-30-9051
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年10月28日

【情報提供票より】(21年 10月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.3

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
または1日当たり			

(4) 利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	0 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院・ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた環境のもと、のんびりと落ち着いた雰囲気の中で生活できるホームである。法人が、職員の教育・医療・人事交流など多方面でバックアップするシステムができており、現在は法人内のどのホームでも安定して共通のケアが提供できるよう研修が進められている。利用者の好みを重視しながら、地域の食材を生かした食事も提供している。介護計画にそった記録方法をはじめ、より良いケアを提供するために業務の見直しをしようという姿勢がうかがわれ、今後は期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は、全職員が確認できるようカンファレンスや申し送りで取り上げた。職員を育てる取り組みについては、法人としても積極的に取り組んでいるが、研修結果や経過を記録に残し、参加していない職員にも確実に伝えられるよう引き続き取り組んでいただきたい。馴染みながらのサービス利用では、入所前には見学を実施して馴染みながら納得のうえでサービス利用をしてもらえるようにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に職員が関われるよう項目を分担して取り組み、管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催している運営推進会議では、ホームからの情報提供を中心に参加者の意見交換が行われている。今後はホーム側からの積極的な協力依頼を働きかけ、参加していない関係者からの意見も取り入れられるよう工夫しながら、討議内容や運営の参考にしてはどうか。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には、日頃の様子を直接伝え、写真も提供している。苦情受付窓口を設置し意見を出してもらえよう心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民とは日頃から行き来しており、近隣ボランティアの慰問も受け入れている。また、保育園や学校との交流も続いており、3年前から中学校の福祉体験も受け入れている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念として、平成20年に現在の理念を職員で作り上げた。地域の中での生活を意識した取り組みも定着してきている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で作上げた理念の大切さを忘れないよう、朝礼や申し送りの際に唱和し、共有と実践の意識作りもしている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前から地域の保育園や中学校とは交流してきたが、平成18年からは中学生の福祉体験も受け入れている。近隣住民とは日頃から行き来しており、近隣ボランティアの慰問も行われている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は、職員がカンファレンスや申し送りで確認した。自己評価は職員が分担して取り組み管理者がその意見をまとめた。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。行政担当者や地域の代表者も参加し、ホーム側からの報告や行政からの情報提供、参加者からの見学者の申し入れなどがされている。	○	運営推進会議では意見交換もされているが、さらに連携を深めるためにホーム側から協力依頼や地域広報誌活用などをお願いしてはどうか。また、会議の記録は職員や家族等にも伝え、会議の意義を理解してもらい、参加できなかった関係者からも意見を出してもらえるように工夫してみることも検討してはいかかがか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも行政担当者には定期的に状況報告し、情報交換できるよう働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日ごろの様子を直接伝えたり、写真も提供している。来所できない家族には郵送している。	○	個別の報告とは別に、ホームからの様々な情報提供によって、家族の関心も高まり意見も出しやすくなるため、どの家族へも知らせたい情報(職員の異動・行事や会議の予定や結果・他の家族からの感想や意見に対するホームの取り組み・行政の情報など)を個別のお便りとは別に作成してはどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、家族から意見を出してもらえる雰囲気作りに心がけているが、なかなか出ない。家族からは「いつもすみません」「お世話になっている」などの言葉が返ってくるが多い。	○	状況の変化や確認のための報告に加え、日頃の様子として生き生きとした表情などや良いことも知らせていくことで、家族との距離も近くなり様々な声が聞かれるようになるのではないかと。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮しながら、最小限に法人間で年に2回の人事異動を行っている。	○	家族にとって職員全員を知ることは難しいため、異動状況を知らせたり、ネームプレートを付けることも検討してはどうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、どのホームでも共通のケアを提供できるよう各ホームの担当職員が集まってケアのマニュアル作りに取り組んでいる。また、研修には職員の希望も取り入れ実施している。法人として新たな取り組みも行いながら研修に力を入れている。	○	法人としての取り組みを有意義に生かせるよう、ホームとしても研修の内容を記録に残し参加できなかった職員に伝える工夫もしてはどうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の会議にも出席して交流の機会を持つようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にはホームを見学してもらい、本人や家族が安心して納得した上でサービスを開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別の対応を大切にしており、職員はいろいろなことを聞きながら、昔のことも教えてもらい、ともに支え合える関係作りに努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現実には実現できない要求に対しては、時間をかけて話を聞くようにしている。	○	実現は難しいことでも、それぞれの思いをまずは受け止め、声掛け方法やサービスの提供方法についてみんなで検討してみてもどうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員や家族の意見を取り入れながら、現状に合わせて作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに、モニタリングも1か月ごとに実施することになっている。介護計画の確認やモニタリングの実施状況がいつでもわかるよう環境作りを取り組みたいと思っている。	○	職員が介護計画を常に意識し、ケアの実践や記録に取り組めるよう引き続き検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外来受診の付き添いや他のホームへの行事参加など希望に沿った個別対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じた主治医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、入所時に説明している。平成21年8月に文章化し、関係者が認識を共有できるようにした。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いなど、プライバシーの確保に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて生活してもらえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から利用者の好みを聞き、季節の食材を生かして食事を提供している。職員も一緒に食事をし、味の評価などを利用者から聞いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴が楽しめるように支援している。日曜日以外は毎日浴槽の準備はしており、希望者は入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	床のモップかけやエプロンたたみ、テーブル拭きや庭の草取りなどできそうな事をお願いしている。レクリエーションでは歌やカルタ取りなどを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に恵まれた環境を生かし、庭では季節の草花を育て、天気の良い日にはいつでも戸外で過ごせるように支援している。散歩やドライブも気軽に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず、誰でも自由に入出りできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、5月と11月に隣人や警備会社の協力を得ながら防災訓練を行っている。1回は消防署の立ち合いをお願いし、指導も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の健康チェックとともに食事や水分量も表にして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行き届いた清潔感のある館内は、畳・ソファセットのスペースもあり利用者や家族もゆったりと落ち着いて過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが思い思いの家具や身の周りの品物を持ち込み、自分の居場所として居室が利用されている。		